

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-157323

(43)Date of publication of application : 18.06.1996

(51)Int.Cl.

A61K 7/00
A61K 7/02
A61K 7/48
// A61K 7/027
A61K 7/032

(21)Application number : 06-321567

(22)Date of filing : 30.11.1994

(71)Applicant : KOSE CORP

(72)Inventor : HOKAO EMI
MOMOSE SHIGESADA
HIRAI KIMITOKU
NAKABAYASHI JIRO

(54) OILY COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an oily cosmetic excellent in usability, finishability and makeup durability, and less apt cause color clothing etc.

CONSTITUTION: This oily cosmetic comprises (A) pref. 0.01-10.0 (esp. 0.1-5.0)wt.% of a carboxyvinyl polymer and/or alkyl-modified carboxyvinyl polymer and (B) pref. 5-99wt.% of an oily base, a conventional solid, semi-solid or liquid oil. When part or whole of the component B is 0.2 in IQB value and liquid at ordinary temperature (e.g. diglyceryl triisostearate, castor oil, oleyl alcohol), this cosmetic is rendered further favorably effective. When this cosmetic is a system virtually free from water, its effect can be more markedly manifested; therefore, being more favorable.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.03.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-157323

(43) 公開日 平成8年(1996)6月18日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00	J		
	7/02	C		
	7/48	P		
// A 6 1 K	7/027			

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 5 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平6-321567

(22) 出願日 平成6年(1994)11月30日

(71) 出願人 000145862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72) 発明者 外尾 恵美

東京都北区柴町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(72) 発明者 百瀬 重禎

東京都北区柴町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(72) 発明者 平井 公徳

東京都北区柴町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 油性化粧料

(57) 【要約】

【構成】 カルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーと油性基剤とを含有することを特徴とする油性化粧料。

【効果】 本発明の化粧料は、使用性、仕上がり及び化粧持ちに優れた油性化粧料である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 カルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーと油性基剤とを含有することを特徴とする油性化粧料。

【請求項2】 実質的に水を含有しない請求項1記載の油性化粧料。

【請求項3】 カルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーを油性化粧料中に0.01～10重量%配合することを特徴とする請求項1又は2記載の油性化粧料。

【請求項4】 油性基剤を油性化粧料中に5～99重量%配合することを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の油性化粧料。

【請求項5】 油性基剤中の一部又は全部が、IOB値0.2以上で、かつ常温で液体であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の油性化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、使用性及び化粧持ちに優れ、更に衣服などへの色移りしにくい油性化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、口紅、アイライナー、アイシャドウ、油性ファンデーション等の油性化粧料は、良好な使用性及び化粧持ちを同時に満足することが難しく、使用性、仕上がり重視したもののは化粧もちが悪く、衣服に付着したり、にじみやすいという欠点を有していた。この欠点を解消するために、従来より種々の検討がなされてきた。例えば、染料を配合したものや、ワックスなどの固体成分を多く配合したものや、揮発性油剤及び皮膜形成剤を配合したもの等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、染料を配合したものは塗布部が乾きやすく、またワックスを多く配合したものはのびが重く使用性が悪い。また、揮発性油剤及び皮膜形成剤を配合したものはのびが重く、塗布後経時で艶がなくなる、塗布部が乾燥する、さらには、経時安定性が悪い等の欠点があった。このため、使用性や仕上がり共に優れ、塗布後、色移りしにくくしかも色持ちが良い等の化粧持ちに優れた油性化粧料が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる実情に於いて、本発明者は鋭意研究を行った結果、特定の高分子を配合すれば、使用性及び化粧持ちに優れた油性化粧料が得られることを見だし、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、粉末状のカルボキシビニルポリマー及び／又は粉末状のアルキル変性カルボキシビニルポリマーと油性基剤とを含有する油性化粧料を提供するものである。

【0005】本発明の油性化粧料は、粉末状のカルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーをそのまま未膨潤で配合することにより、塗布後に空气中又は皮膚中の水分を吸収して膨潤し化粧膜が増粘するため化粧膜強度が上がり、化粧持ちが向上する効果が得られ、同時に経時安定性上の問題も解消した。

【0006】本発明で用いられるカルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーは、通常化粧料に用いられるもので、特に限定されるものではないが、例えば、カーボボール940、同941、同1342、ベミュレンTRI、ベミュレンTRI（いずれもグッドリッチ社製）として市販されているものを使用することができ、必要に応じて一種又は二種以上を組み合わせ用いることができる。これらの高分子は、従来、化粧料へは水膨潤物として配合されているが、これらの水膨潤物を油性化粧料に配合することは困難であり、配合できた場合でも、経時安定性が悪くなるため粉末状で配合することが望ましい。

【0007】本発明におけるカルボキシビニルポリマー及び／又はアルキル変性カルボキシビニルポリマーの配合量は、全組成中に0.01～10.0重量%（以下単に「%」で示す。）が好ましく、更に0.1～5.0%であれば、更に良好な使用性、化粧持ちが得られる。

【0008】本発明で用いられる油性基剤としては、通常用いられる固体、半固体及び液体油であれば、特に限定されるものではないが、動物油、植物油、鉱物油、合成油を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、エステル類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油、親油性界面活性剤等が挙げられる。例えば、流動パラフィン、スクワラン、ポリブテン、ワセリン、パラフィンワックス、セレシンワックス、マイクロクリスタリンワックス、合成炭化水素ワックス、ホホバ油、モクロウ、ミツロウ、カルナバロウ、キャンデリラロウ、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルシクロポリシロキサン、三次元架橋構造を有するジメチルポリシロキサン重合体等を使用することができ、必要に応じて一種又は二種以上を組み合わせ用いることができる。

【0009】本発明における油性基剤の配合量は、全組成中に5～99%が好ましいが、製品形態によって適宜選択される。

【0010】また、更に本発明で用いられる油性基剤の一部又は全部がIOB値0.2以上で、かつ常温で液体であれば、より効果が得られ、例えば、トリスステアリン酸ジグリセリル、2-エチルヘキサン酸トリグリセライド、ジカブリン酸プロピレングリコール、ヒマシ油、オレイルアルコール等が挙げられる。

【0011】本発明の油性化粧料は、実質的に水を含ま

ない系であれば、効果の発現がより顕著でありより好ましい。

【0012】本発明の油性固化粧料には、上記成分の他、本発明の効果を損なわない範囲で、化粧品一般に使用される粉体、界面活性剤、酸化防止剤、高分子化合物、香料、防腐剤、紫外線吸収剤、保湿剤、美容成分等を配合することができる。本発明の油性化粧料は、口紅、アイシャドウ、アイライナー、ファンデーション、クリーム等が例示される。

【0013】

【実施例】以下、実施例により本発明を更に詳細に説明するが、本発明は、これらに限定されるものではない。

【0014】実施例1～7及び比較例1～3

表1に示す組成の油性化粧料を調製し、のびの軽さ、膜の均一性、色移りのしにくさ、色持ちの良さ、唇の乾きのなさについて官能評価を行った。その結果も併せて表1に示す。なお、実施例1～7および比較例1～3は口紅である。

【0015】

【表1】

		実 施 例							比較例		
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
成分		(%)									
A成分	合成炭化水素ワックス	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
	キャンデリラワックス	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
	セリンワックス	—	—	—	—	—	—	—	5.0	—	—
	スクワラン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	—	—	4.0	4.0	—
	トリイソステアリン酸ジカプリル	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	10.0
	2-エチルヘキサン酸トリカプリル	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	42.0	42.0	40.0	40.0	10.0
	メチルシクロヘキシルシロキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	残量
B成分	トリメチルシロキサン酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14.0
	カルボキシルニルホリマー	—	—	—	—	—	1.0	1.0	—	—	—
	アルキル変性カルボキシルニルホリマー(Δ・ミルンTRI)	0.05	0.1	3.0	10.0	12.0	—	1.0	—	—	—
	染料(赤色218号)	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—
	酸化チタン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	顔料(赤色201号)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	顔料(赤色202号)	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
	顔料(黄色3号)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	美容成分	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
評価											
使用性(のびの軽さ)		◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	×	×
仕上がり(膜の均一性)		◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	△
色移りしにくさ		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	△	○
色持ちの良さ		○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	△	△
唇の乾きのなさ		◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	×	×	×

【0016】(製法) A成分を110～120℃にて加熱溶解し、これにB成分を加え均一に混合した後、成型用型に流し込み、冷却固化して口紅を製造した。

【0017】(試験方法及び評価方法)

a) 使用性(のびの軽さ)

各試料を唇に塗布し、のびの軽さを評価した。

b) 仕上がり(化粧膜の均一性)

各試料を唇に塗布し、化粧膜の均一性を評価した。

c) 色移りしにくさ

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、2時間後にティッシュで唇をおさえて口紅の色移りのしにくさを評価した。

d) 色持ちの良さ

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、半日後の化粧持ちを評価した。

e) 唇の乾きのなさ

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、2時間後の唇の乾きのなさを評価した。

【0018】各評価項目について、10名の官能パネルにより下記の7段階(0～6)の絶対評価を行い、その平均点を更に4段階に分けて評価した。

(1) 絶対評価

6：非常に良い

5：良い

4：やや良い

3：普通

2：やや悪い

1：悪い

0：非常に悪い

(2) 4段階評価

5点以上：非常に良好：◎

4点以上5点未満：良好：○

2点以上4点未満：やや不良：△

2点未満：不良：×

【0019】表1の結果から明らかなように、本発明品である実施例1～7の口紅は、比較例1～3の口紅に比

較して、使用性、仕上がり、色移りにくさ、色持ちの良さ、唇の乾きのなさの全ての面で、はるかに優れた特

性を有していることがわかる。

【0020】

実施例8：アイライナー

(成分)	(%)
(1) ポリビニルイソブチルエーテル	4.0
(2) 軽質流動イソパラフィン	残量
(3) ポリエチレンワックス	7.0
(4) セレシン	3.0
(5) パルミチン酸デキストリン	4.0
(6) レシチン	0.5
(7) アルキル変性カルボキシビニルポリマー (ベミュレンTRI)	0.1
(8) 黒酸化鉄	18.0
(9) マイカ	3.0
(10) タルク	2.0
(11) 保湿剤	適量
(12) 香料	適量

【0021】(製法)成分(1)～(4)を110～120℃にて加熱溶解し、これに(5)～(12)を加えて均一に混合して脱気し、アイライナーを得た。本発明

のアイライナーは、使用性、仕上がり、化粧持ちに優れたものであった。

【0022】

実施例9：アイシャドウ

(成分)	(%)
(1) マイカ	20.0
(2) タルク	残量
(3) ナイロンパウダー	5.0
(4) マイクロクリスタリンワックス	3.0
(5) アルキル変性カルボキシビニルポリマー (ベミュレンTRI)	0.5
(6) 雲母チタン	20.0
(7) 酸化鉄	1.0
(8) 群青	0.5
(9) 赤色202号	0.5
(10) スクワラン	6.5
(11) ワセリン	3.0
(12) 紫外線吸収剤	適量
(13) 香料	適量

【0023】(製法)成分(1)～(4)、(6)～(9)を攪拌混合し、これに加熱溶解した(10)～(11)に(5)、(12)～(13)を分散させたものを加えて更に混合した。その後粉碎して圧縮成型し、

アイシャドウを得た。本発明のアイシャドウは使用性、仕上がり、化粧持ちに優れたものであった。

【0024】

実施例10：油性ファンデーション

(成分)	(%)
(1) セレシン	5.0
(2) パラフィン	6.0
(3) ワセリン	5.0
(4) ホホバ油	15.0
(5) ヒマシ油	残量
(6) メチルポリシロキサン	15.0
(7) 有機変性ベントナイト	1.0
(8) アルキル変性カルボキシビニルポリマー	

(ベミュレンTRI I)	0.1
(9) 酸化チタン	10.0
(10) セリサイト	5.0
(11) ナイロンパウダー	5.0
(12) 酸化鉄	5.0
(13) 抗酸化剤	適量
(14) 香料	適量

【0025】(製法)成分(1)～(6)を加熱溶解し、(7)を加えて混合する。これに(8)～(14)を加えて均一に混合し、冷却成型して油性ファンデーシ

ョンを得た。本発明の油性ファンデーシオンは、塗布時の使用性、仕上がり、化粧持ちに優れたものであった。

【0026】

実施例11：ハンドクリーム

(成分)	(%)
(1) スクワラン	残量
(2) 2-エチルヘキサン酸トリグリセリル	25.0
(3) メチルポリシロキサン	5.0
(4) セタノール	3.0
(5) モノラウリン酸ポリグリセリル	0.5
(6) グリセリン	15.0
(7) 1,3-ブチレングリコール	5.0
(8) アルキル変性カルボキシビニルポリマー (ベミュレンTRI I)	0.5
(9) 保湿剤	適量
(10) 香料	適量

【0027】(製法)成分(1)、(4)～(5)を加熱溶解し、残りの成分を加えて均一に混合してハンドクリームを得た。本発明のハンドクリームは、使用性に優れ、手肌の被覆効果の高いものであった。

【0028】

【発明の効果】本発明の化粧料は、使用性、仕上がり及び化粧持ちに優れた油性化粧料である。

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶
A61K 7/032

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

(72)発明者 中林 治郎
東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
ー研究所内